

千里山今昔展を拝見して

二十四回生 奥田 陽一

今年は大正12年に最初の14戸が入居して90年、千里山のあれこれを振り返りながら未来を語る「千里山今昔展」が5月23日(木)から5月27日(月)まで千里山まちづくり協議会(会長 筒井一光氏 ホームページ <http://blog.goo.ne.jp/chisato-wind>)主催で開かれました(共催ちさと・後援千里山自治会)。ちさと(千里山・佐井寺図書館)の復元教室が展示場、多目的教室では土・日に講演会・座談会が開かれました。

後で伺ったところでは記名参観者が5日間で500名以上、講演会にも満員の聴衆が詰めかけ大盛況でした。展示のために大量の写真や資料を集めて整理され、展示パネルを準備された千里山まちづくり協議会の皆様のご努力に敬意を表したいと思います。

折角用意されたパネルは今後ずっと保存されるはずですが、出来れば千里山会に貸して頂き、総会などで在京の千里山出身者の皆様に見て頂ければと願っています。

正面玄関を入り右に行くと会場前の通路に筒井康隆氏、高村薫氏など千里山ゆかりの作家の方々の著作、

藤田田氏他千里山出身の方々の評伝、「千里山開発70年のあゆみ」などと並んで会誌「千里山」の創刊号から15号までの全巻が展示されていました。

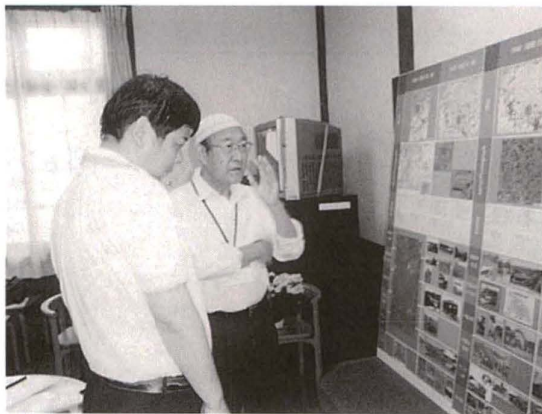


会場に入るとすぐ「千里山開発記念碑」の立派な拓本が飾られています。また千里山で59年続く、俳句同人誌「雨月」の主宰者大橋櫻坡子・敦子氏他の千里寺境内にある句碑の拓本もあります。いずれも北千里拓本クラブの方々が制作された力作です。

「雨月」には大阪府下は勿論東京、名古屋など全国に多数の同人がおられ、現在の第三代目主宰者咲氏は櫻坡子のご長男で千二小に一年生の時在学されました、

姉上の佐藤淑子さんは卒業生です。

展示の圧巻は開発前の1900年(明治33年)から現代まで20年ごと(昭和35年からは10年毎)の歴史をまとめた大パネルです。当時の地図、航空写真、主な出来事、町並み・生活、噴水など千里山のシンボル、千里山駅、千里山団地、千二小・一中など写真を主に構成されています。



テーマ毎に十数枚の写真とその説明を入れた小パネルも沢山展示されています。

テーマは「千里山らしい家1, 2」、「坂と緑 昔と今」、「噴水」、「千里山にあったもの」、「千里山駅」、「阪急電車」、「千里山遊園(飛行塔が懐かしい!)」、「関大」など興味深い写真ばかりです。



32田代為寛(しんたろう)さんの特別展示コーナーが設けられ、会誌にも掲載された「千里山うろ覚えイラストマップ」や千里山想い出漫画、そして韓国漫画家との交流、最近の出版物など多数展示されていました。

田代さんの特別展示コーナー
 恩師の廣田（旧姓 森）三希子先生と



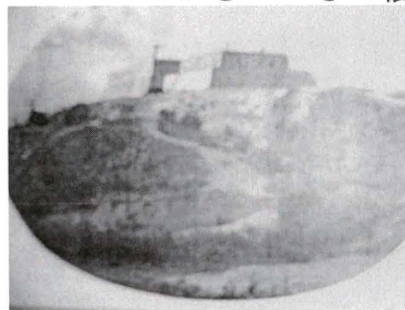
さらに会場内のテابلにも懐かしい写真や興味深い資料が所狭しと並び、ゆつくりと椅子に座って目を通す方が多数おられました。

講演会（五月二十五日午後）

トップバッターとして大阪市史編纂所長で多数の著作のある29堀田曉生氏が「千里山の歴史」、続いて32田代かんたろう氏が「千里山 ON MY MIND」の題で講演されました。

堀田氏の講演は多数の写真や資料のスライドを使い興味深い千里山の歴史を紹介されました。千里山神社上の「貯水池」完成当時の写真は周りに木など植えられておらず、まるで天守台か（天守閣を建てれば千里城？）、インカの古建造物と間違えそうです。子供時代、春は周り一面の桜の海でのお花見、夏は蟬取り、そして年間を通して六甲山、宝塚、大阪城や大阪湾まで見える展望台として懐かしい場所です。

戦時中に鉄柵が供出されて鉄の扉だけが残し、子供は入り放題でした。事故があったり毒物など入れられたら大変ですが知る限り問題は何も起こらなかったはず。



座談会（五月二十五日午後）

「千里山今昔よもやま話」を藤木祐輔自治会理事長の司会で行われました。出席者は堀田氏・田代氏のお二人の講演者の他「千里山70年のあゆみ」の編集者川崎氏、それに東谷勝司先生とそうそうたるメンバーで小生も末席を汚しました。東谷先生は小生より一回りは年長の筈ですが髪の毛も黒々、フサフサされ、とてもお元気でした。座談会終了後小生達の千二小卒業50周年同窓会で同級生と間違えた奴がいた話で盛り上がり、今なら先生より老けて見える同窓生の数は更に増えていることでしょう。東谷先生からは千二小での思い出として木造校舎に支柱を付けるべく職員会議で力説されたことを伺いました。

戦後すぐには大阪などで焼け出された家族が、空襲に遭わなかった千里山の知り合いを頼り、表札が5枚ある家もあったとか、小生一家もその内の一軒ですが焼け跡の無い千里山に来て平和を実感したものです。

「貯水池」（私たちは水源地と呼んでました）が絶好の遊び場で上に登ると大阪城から遠く大阪湾まで見渡せたこと、現在は小山がすべて削られて残念なことなど、藤木氏の話ではその下には何百トンも入る新しい貯水槽が設置されているとのことでした。

千里山の電柱にはプレートが付けられ「河田山」、「河原谷」など私共に馴染みのない地名が漢字やカタカナで書かれており、これらは千里山開発以前の吹田・佐井寺の「小字」であると聞いて大変驚きました。今号に掲載の20浅野倉平さんの「昔の地名を伝える千里山の電柱」の疑問を説明するもので、堀田氏のご了解を頂き詳細を「昔の地名を伝える千里山の電柱後記」として掲載致しました。堀田氏に厚く御礼申し上げます。

田代さんは2才から千二小4年まで千里山に住まれ、会誌に連載された漫画などもスライドで紹介しながら、千里山での生活がすべての出発点であることを話されました。大学の講義では法隆寺金堂の落書き、鳥獣戯画、北斎漫画など日本の漫画の歴史までも講義されます。北斎が日本漫画の原点、名前を30回変え90回引越したのには及ばないがご自身も10回引越しし、名前も何度も変えたと話され、会場の笑いを誘いました。大学で力を入れているのは絵の指導ではなく、ストーリーを作る発想や構成、企画力など、こうした力があれば他の世界で通用するとのこと。

昔読んで夢中になり、皆が一度は漫画家を志した、手塚治虫氏の「漫画大学」のようなことを教えるのかと思っていたのですが、お話を伺い大違いであることがよく判りました。

DVD上映会（五月二十六日午後）

「吹田の文化遺産―千里山団地の記録―」

「古時計を巡る冒険」の2本が上映されました。後者は昨年の総会に取材に来られた関大生のレポートで古時計にまつわる思い出を多数の人にインタビューしたものです。総会での「大きな古時計」合唱風景、20浅野さん、35石井さんとのインタビューが写っておりました。

座談会（五月二十六日午後）

「女性が語るこれからの千里山」藤本英子氏のコーディネートで生まれて以来千里山にお住まいの方、千里山の良さに惹かれて移り住んだ方、千里山に職場を持つ方など子育てもやりながら大学で教えたり、仕事に就いている方々ばかり、ちさと図書館長の長島克代さん、26瀧梢さんも参加されました。子育てをしながら仕事もされている方々で子供がのびのびと育ち人のふれあいがある、暮らしやすいまちづくりに向けて活発な意見が出ました。瀧さんが話された昔は道路が遊び場だったこと、小生も近所の子供達が道で遊び、時には入口扉など何もない皆の家の庭まで入り込んでいたことを思い出しました。車が頻繁に通る防犯のためにブロック塀などに囲われた家も増えた現在では考えられない話です。

どに記念展示コーナーを設ける。

- ・ 生誕の地に表示板を設置したり、縁りの道路（千二小正門までの通り）に「古時計通り」の愛称を付ける。
- ・ 学校の音楽教育の中で『大きな古時計』を教えたり唱いながら、街の歴史や文化に愛着と誇りを持つ。

関係ホームページ紹介

- ・ 千里山まちづくり協議会HP ちさとの風
<http://blog.goo.ne.jp/chisato-wind>
- ・ 32田代為寛さんのHPで「千里山今昔展」を紹介
<http://www.tashiro3.com/news/2013senri2013senri.htm>
- ・ 「千里山今昔展」吹田市ケーブルTVで放送
千里山ブラウズ 2013.06.02 千里山・NET 小島 功
さんのブログより見ることが出来ます。
<http://blog.goo.ne.jp/senriyama-net/e/ae812908fcd0ac53fae478a7cf2a305>

以上

今昔展の貴重な展示を小さな写真でなく実物で会員の皆様に見て頂けたらと「千里山まちづくり協議会」の筒井会長様に展示物の借用をお願いした所、快く貸出のお許しを頂きました。十月十二日（土）の総会で展示する予定にしており、多数の方々に是非ともご覧頂きたいと存じます。

『大きな古時計』の街 千里山 プロジェクト案

「今昔展」で嬉しいパンフレットを戴きました。

保富庚午さんによる『大きな古時計』訳詞が誕生して今年で50周年になるそうです。『大きな古時計』を千里山の街を象徴する歌として提案し、今後のまちづくりに広く反映して、千里山の活性化につなげたいとの趣旨で、最初の集まりから千里山の象徴として『大きな古時計』を長らく歌い続けてきた千里山会としても早い具体化を目指し協力したいと考えました。

23黒澤琉美子さんからのメールで庚午さんの奥様操様が今年4月24日に亡くなられたことを知りました、庚午さんの死から29年目のこと、お悔やみ申し上げますと共にこのプロジェクトのことをお伝えできなかったのがまことに残念です。

今後の展開案としていろいろ挙げられていますが、その内の一部をご紹介します。

- ・ 交差点や駅ホームのチャイムや、工事中の駅前広場にモニメントを建てるなど、景観の中に音や形として住民に親しんで貰う。
- ・ 千里山・佐井寺図書館などで『大きな古時計』展を開催し、保富さんの作品やその想いを紹介する。
- ・ 図書館や新設の「駅前コミュニティセンター」な

